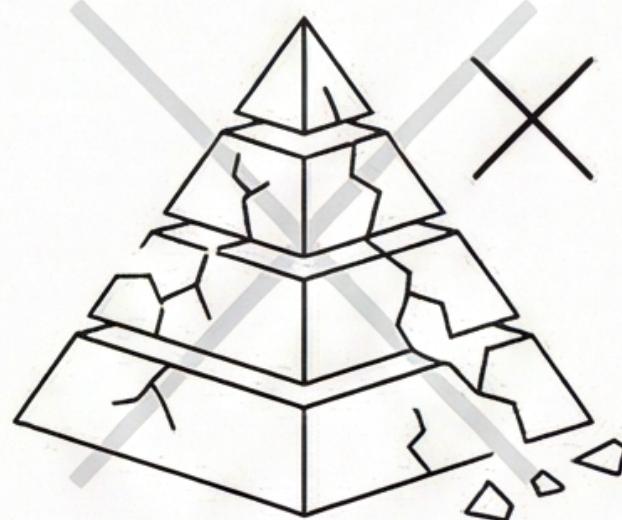


AI時代の“成果報酬型ビジネス”に工数管理が超重要な理由

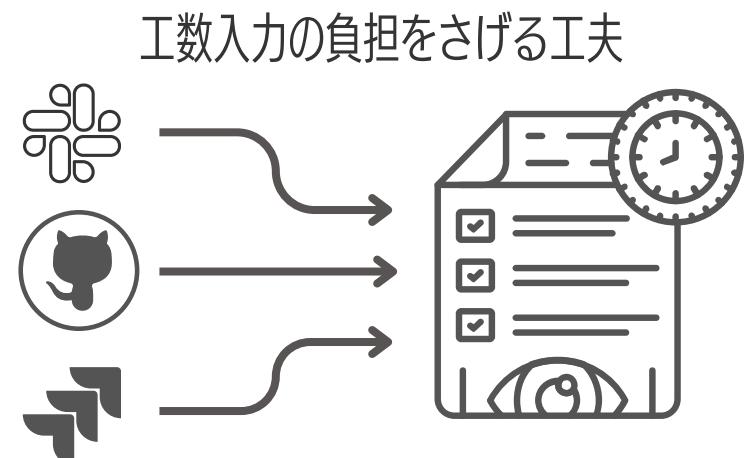
①生産性のパラドックス



人月モデルの崩壊

生成AIによる生産性の向上により工数が劇的に削減されるが、人月ビジネスにおいては売上の減少を意味し、自己否定の構造に陥る

②攻めの原価管理



原価管理の高度化

活動ログから工数を自動収集するなど、工数入力負担を減らしデータの精度を高め、時間とコストをどこに費しているか高度な分析を可能にする

③成果モデルへの転換



価値への価格設定

「かかった工数」ではなく、顧客が享受する「提供価値」で対価を得るモデルへ転換し、AIによる効率化を利益に直結させる

④意思決定を支える仕組み



原価管理の重要性

固定価格・成果報酬型ではコスト超過が即赤字に繋がるため、従来以上に精緻なリアルタイム原価管理が経営の生命線となる

正確な原価データを羅針盤とし、ビジネス成果の確約へと進化できる企業だけがAI時代の競争優位を確立できる